

TICADプロセスを通じた農業開発に関する会合 ーアフリカにおけるフードバリューチェーン構築に向けてー 結果概要

6月10日、FAO総会（於：ローマ）の機会に、TICAD（アフリカ開発会議）プロセスを通じた農業開発に関する会合を開催した。

1. 会合の概要等

- (1) 日 時：平成27年6月10日（水）12:30～13:40
場 所：FAO内会議室（シェイフ・ザイド・メディア・センター）
- (2) 参加国等
 - ・エチオピア、ガーナ、マラウイ、カメルーン等アフリカから43ヶ国
（うち、大臣15名、副大臣2名）
 - ・その他の国及び国際機関を含め合計約200人。
- (3) テーマ：アフリカにおけるフードバリューチェーン構築に向けて
- (4) 概要：
【会場の様子】



【冒頭あいさつ】

グラツィアーノFAO事務局長（左端）、針原農林水産審議官（左から2人目）、
メラー・在ローマ アルジェリア大使館全権公使（右端）



【パネリストによる発言】

① テフェラ・エチオピア農業大臣



小麦の生産者と小麦粉やパスタ生産者との良好な関係構築を実現した。

日本の協力を得て、小農が地域資源を活用したフードバリューチェーンを構築した。その結果、収入が増加し商業的農業への関心が高まった。

② チェンベケザ・マラウィ農業・灌漑大臣



小農が民間企業とパートナーシップを組み、成功するためには、小農の組織化を促進し、一定の生産量や購入量を確保し、価格交渉力を高めることが必要。また、小農と企業の契約栽培が有効。

政府による市場の整備も必要。

③ アルハッサン・ガーナ食糧・農業副大臣



小農を自給的農業から商業的農業に移行させる政策を推進。

農業が民間投資にとって魅力あるものとなるよう、投資への課題を取り除く政策が必要。

民間による貯蔵施設、加工施設、収穫後の品質管理への投資を期待。

【他のアフリカ参加大臣からの発言】

○セセイ・シエラレオネ農業・林業・食料安全保障大臣



小農は組織化により商業的農業に発展する潜在性を有している。小農も民間セクターの定義に含めるべき。

アグリビジネスのための金融の充実が重要。

○ルビンダ・ザンビア農畜水産大臣



農業には国民に食料を供給する役割とビジネスとしての役割がある。政策担当者として、この異なる役割のバランスを如何に保つかが課題。

○セディック・チュニジア農業・水資源水産大臣



FVCには始点から終点まで多様な者が関わるので、継続性と共通の利益の2つが重要なキーワード。

小農にも焦点を当て支援すべき。

【針原農林水産審議官による締めくくり】



参加者及び準備に携わった人への謝意を述べるとともに、本日の議論の結果をTICADプロセスへのインプットとする旨発言し、会合を閉会。

2. 和食昼食会

本会合に引き続き、農林水産省主催による和食昼食会を開催。会合に参加したアフリカ各国の参加者を中心に約120名が参加。現地食材を用いた日本食を提供することにより、アフリカ各国への日本食文化の普及に努めた。

